

応用化学系の今

応用化学系系長

小野 文一郎

今年もまた応化会ニュースをお届けする時期になりました。会員の皆様には如何お過ごしのことでしょうか。一九九九年度の応用化学系系長としてご挨拶致します。

一、二を争う厳しさです。この点をご理解頂き、応化会会員の皆様のご支援とご助力を切にお願いする次第です。ところで、応用化学系では、それぞ

れ、その特色をより明確にする方策の一つとして、二〇〇〇年度から両学

科の学科名称を変更するにしました。「基礎を踏まえた上で应用到生かせる化学的教育」を目指す「応用化学」と「化学に基礎を置いた上での生

物工学の基礎理論と実用技術の教育

を指す「化学工学」というのが新しい名称です。これは、名称を内

実に合わせていくことが目的ですから、カリキュラムには大きな変更はありません。ただし、これとは別に、大学全体

の「二〇〇〇年度カリキュラム改定」には、学系として真剣に取り組んでおり、一回生後期からの実験開始という

大きな改革を検討しています。

立命館大学では、文理融合型インスティテュートの開設により、「入学者数の減少」に伴う臨時定員の削減を補う方策を立てています。そして、応用

化学系では、化学科が環境ファイナンスイंスチテュートの学生を受け入れて

います。文理融合型インスティテュートは文系と理系にまたがる教科を目指すものであり、二十一世紀の大

学教育のモデルともなり得るものです。受入れならびに卒業生の動向が大変注目されます。一方、文部省は

すでに高等教育の基盤を大学から大学院に移行しています。そして、その影響が国立大学から私立大学に広がって

きており、このままでは私立大学は国立大学院大学への進学者養成所になり

かねない情勢です。立命館大学はこれまでも大学院の拡充を進めてきていま

すが、今、また、この情勢に合わせた大学院の整備が検討され始めていま

この点については、今後の立命館から二ニュースにご注目ください。

ところで、昨今、「オゾンホール」、「地球温暖化」、「環境ホルモン」、「遺伝子操作食品」、「クロロリン動

等々、応用化学系に関する深い研究分野の課題が日常的な話題になっています。どれも人類の存続にかかわる課題であり、早急な問題解決や技術開発が望まれています。

しかし、問題の捕え方が概して一面的であたり感覚的であるために、悲観的な、また、科学や科学技術に否定的な言

動が目につきます。このような社会の雰囲気の中で、応用化学系では、学生に科学の可能性を語り、課題（問題）の部分的な解決ではなく、「ま

ず、対象を冷静に認識し」、「そして、関連する要因を分

析し」、「それに基づいて、解決策をシミュレートできる研究者ならびにそのような知識を実体化できる技術者に養成する努力を続けています。応化会

の皆様、是非、びわこくさつキャンパス、応用化学系にお立ち寄り下さい。また、学生や教員に気軽に励ましやお叱りの声をお掛け下さい。このようにして交流の輪が広がることを願っております。

ご挨拶といながら、応化会の皆様へのお願いを並べるだけになってしまったこと、ご容赦願います。そして、最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とますますのご発展を祈願しながら、拙文を終わります。



定年退職にあたって

深海 浩



本年三月末をもって生物工学科の教授を退きました。衣笠で二年、BK Cで五年を過ごしました。この七年間は、わたしの経歴したどの時代のものよりもっとも短く感じた七年でした。それだけ楽しく愉快なものであった反面、やるべき仕事もいささか積み残したほど、呑気に怠惰に過ごした証拠です。いずれにしても、愉快にして呑気な七年間は、応用化学系の教員や応用会の皆様方からのご支援の賜物と感謝しております。この四月からは、立命館大学総合理工学研究機構の客員教授として、産学交流にまつわる諸々の業務の振興に力を注ぎたいと思っております。今後とも旧に倍するご厚誼のほどお願い申し上げます。

七年前、衣笠六号館の研究室で出会った最初の数名の卒研生がなんと初々しく活気のある若者よと、この研究室での未来へ希望の胸を膨らませたと同時に、大きな責任を感じたものでした。それがなんと、年々活気が失われ、遂には、打って響かぬ輩どもと怒気を含んで罵倒するまでに世の若者は変貌して行つたのです。最初はわが研究室だけの特異な困つた風潮かと慌てましたが、それはなにも応用化学系、さらには理工学部全体だけに限つたものではなく、わが国の大学生全般の大きな悪か潮流であつたのです。それだけ、われわれの周囲だけでもこの好ましくない流れを断ち切りたいと大それた試みを企んだのですが、この甘い試みは完全に失敗で、失意のうちここに二、三年は無責任にも完全に見て見ぬふりをして逃避してしまつたのが、偽らぬ私の姿であつた。

先日、昨年四月の学部卒で、ある中堅の食品関連の企業に就職した男性に会う機会に恵まれて、驚きました。なんと、その男の変わったこと、はきははきと受け答えはすばらしい、当方の冗談にも、それ以上のユーモアを交えた会話を盛り立てると、四回生当時の笛吹きど踊らぬ消極的な彼からは想像だけにきぬ情景でした。大学では出来ないと思

ばかり考えていた企てが、企業ではこれほどまでの短期間に成就できるので。われわれ大学人の工夫と根気が足らんのです。

これからは「少子化時代」に突入して、わが国の大学、とくに私立大学は否応無しに大きく変貌するでしょう。大学院の拡充と充実によつて、内容の高度化を世に問い、輝かしい未来を約束する大学の姿こそ、確かに正道です。しかし、それと並行して、なるほどあの大学の卒業生は一味違うわ、と世の中の人から評価される人物の育成をも真剣に考えるべきです。もう一つ、あらためてここに主張したいのです。これであることは百も承知のうえでも、思つてたのが、わたしのいささか積み残した仕事です。いささかなどと申しながら、これは大変な大仕事であり

同窓会の諸先輩とも協力して、この難事業にみんなで気長に取り組みたいます。

深海先生の御定年退職にあたって

ご存じの方も多いと思いますが、深海先生は「化学生態学」という研究分野の日本で先駆者であり、京都大学を御定年退職後、一九九二年に立命館にご着任されました。当時、生物工学科は誕生しておらず、新学科の設立に大いにご尽力された



略歴
一九五二年 京都大学農学部農芸化学科卒業。京都大学農学部助手、助教を経て一九六六年京都大学工学名譽教授。同年立命館大学理工学部教授。

今村 信 孝

と聞いております。大学協議員、総合理工学研究機構研究センター群運営委員長、メディアセンター長などの学内の重要な役職を歴任され、応用化学系のみならず、学園の知恵袋として活躍されました。また、大学院改組拡充を押し進められ、現在の理工学研究科定員五〇〇名体制も、先生のご尽力の結果、生まれたものであります。

さまざまな学内役職に加え学外での役職も多く、大変お忙しいはずではありましたが、一度も「忙しい」と言われたことのない不思議な先生です。私のような凡人には理解できない、何か不可思議なパワーをお持ちのようで。我々教員は、面倒な問題が起こると必ず深海先生のご意見を伺つてきました。その度に、深海マジックとでも呼べる独自の解決策を示されてきたように思ひます。一方、学生には時に親代わりとして、時に人生の大先輩として、実に細やかに接しておられました。眠くて朝起きられないという男子生徒のために、毎朝、先生御自身がモーニングコールをされたこともあつたようです。深海先生は常に学生を信じ、「どんな学生でも、社会に出たら皆一人前になる」というお考えのもと、留年させずに無事卒業させることにお力を注いでおられたのです。いまだに、先生がお住まいの長岡京市方面には足を向けて寝られない卒業生の方も、いらつしやるのではないのでしょうか。

世の中では、大学を取り巻くさまざまな問題がクローズアップされてきております。先生は立命館御定年退職後も暫くの間、客員教授として「お礼奉公」をなさるとおっしゃつておられますが、実際には先生のお知恵を拝借しなければならぬ事例が山積しているのが現状です。先生がますますのご健勝と、ご活躍をお祈りいたします。

お酒と野球と研究と

山本 二郎
(昭和三十三年卒)

郷里鳥取には君司という酒造会社がある。この会社には「水田地酒の会」となる組織があつて、会員たちは酒が開發した水温技術に従つて水温地酒「こおりやんせ」をつくつてゐる。

醱酵菌は温度を生存限界近辺まで下げやると、寒さからの凍結死を防ぐため、不凍液を生産し蓄積する本能があることが発見された。この場合の不凍液とは酒のうまみ成分である糖、蛋白質、高級アルコールである。会員たちは酒米の田植、参加し、脱穀、酒の仕込み等の作業に参加して、自らの酒を製造した実感を味わうことになる。芳醇でまろやかな味は各専科専門家によりすでに保証済みである。

学生の頃どぶろくや焼酎をよく飲んでいて、日本酒は学生にとってハイクラスの飲料だった。当時、朝鮮人学生で親友の金子君が居た。私は実験室から10リッターのだるま瓶を持ち帰り、砂糖水をつくつた。金子君がくれたこうじを加えて密栓し、夜は瓶をオーバードンで保温した。ある日の夜半、ボンと音がしてゴム栓がはずれ天井を強打した。醱酵が始まって二酸化炭素が発生したと思われる。以後研究室のコンパにはこの液を持参して各位

にはご賞味願つた筈であり、杉田先生にもお飲みいただいた。

杉田研究室のソフトボールは、以前から強豪としての伝統を受け継いできた。杉田先生は六番打者で私はよく三番を打たされた。化学科内での試合では負けた記憶は全くない。理工学部ソフトボール大会では決勝戦まで進出し、アキレタポイズに僅差で敗れたのが唯一の敗戦記録かと思はれる。

三十年前、当時の鳥取大学工学部長、小島公平教授よりソフトボール大会のための小島盃が寄贈された。この会は途絶えることがなく、今年で三十回目となっている。私が率いる化学系のチームは圧倒的な強さを發揮して、十五回以上の小島盃を手中にし、私にとつての最終戦も優勝に導いた。優勝カップは目下私のオフィスで燦然と輝いている。

私は現在二つの野球チームと二つのソフトボールチームに所属して、一日に二着のユニホームを着用することがある。このために、休日は多忙を極めることとなり、月曜日は学校で日曜の疲れをいやすが、今の生活パターンとなっている。本年はこの外好調で、すでに四本のホームランを打つて

いる。

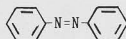
杉田研究室ご出身の方は、フリーンス転位の手ほどきを受けた方が多いことであらう。転位とは、有機化合物の中で一つの位置から他の位置へ移動する反応である。これには移動基が一度母体から脱離したのち別の位置へ移る分子間転位と、移動基が母体から離れることなく、結合をつたつて移動する分子内転位とに大別される。学生の頃、京都大学工学部に小田良平教授が在任されていた。一介の学生にとつて小田先生はまさに神祕的存在だった。先生の著書「有機合成化学」には「フリーンス転位は分子間機構で進行する。時折分子内転位と書かれているがこれは誤りである」と述べられている。フリーンス転位が分子間で進む根拠となつたのは、ドイツの化学雑誌、ペリヒテに掲載されたある論文である。あるとき

私は著者が主張するフリーンス転位における分子間性の論拠には、重大な欠陥があることに気がついた。以後研究法に改良を加え、自分が振つてい

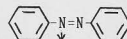
は反応性が異なるものと考えられる。またフェニル基の一つに置換基をもつ

アゾキシベンゼン、酸素原子の相対的な位置により二つの異性体が存在する(α-体、β-体)。わずかな構造の違いでも、α-体とβ-体とは反応性に大きな差が見られ、この研究課題は今も山本研究室の支柱となっている。赴任した頃家族的だった工学部教官も、今や一五〇名を越しており、38%の京大出身者を含む国立立出身者集団と化していた。こんな環境にあつて思うこと、決して母校の名譽を汚さない。このためになすべき事は唯一、研究を進める以外にはない。幸い私の研究は着実な進展を見せており、幾つかの研究業績を残し得た。私の定年退官までにはあと七ヶ月ある。夕方は肝臓のごきげんをとりながら、休日は腰痛とうまくつきあつて、ウイークデーは老体にむち打つことになるだろ

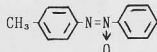
う。余命いくばくもない私のために、今後とも熱い声援を送つて下さるようお願いしたい。



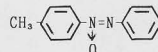
アゾベンゼン



アゾキシベンゼン



4-メチル-ONN-アゾ



4-メチル-NNO-アゾ

キシベンゼン(α-体) キシベンゼン(β-体)



「立舎会」第八回総会のご紹介

岡本 朗
(昭和三十三年卒)

平成十一年六月二十六日の応化会幹事会である幹事から次のような意見がありました。「応化会の活動を活発に展開するには、まず各年度同窓会(同期会)の活動を実施することが必要と思う。応化会でも同期会やクラス会活動を積極的に支援してはどうか。」我々三十三年卒者は、一、二部合同で立舎会の名称で同窓会を続けており、本年六月五日、都ホテルで第八回総会を開催しました。

今回は、鈴木啓二・横山一英・竹内良夫の三先生を始め約二十五名の参加を得て、久しぶりの歓談に花を咲かせました。総会は二十年近く前から隔年開催を原則にしてありますが、今回は長引く不景気の影響もあって四年目の開催となりました。

立舎会の名称の由来は、立は立命館から、舎はオランダ語セミの当て字として用いられていた舎裏から採りました。別の年長者の幹事からもクラス会を長年に亘って活発に続けていると一言報告がありました。継続の大きな支えになっているのは、クラスメートの中に、誰か奉仕的

立命館大学

写真研究会 O B 会

岡本 朗
(昭和三十三年卒)

に率先して世話をすると、またそれにより協力する何人かが居ることが要件で、世話役幹事を願番制で廻すだけでは続かないと言う主旨の報告でした。我々の立舎会でも努力を厭わず快く世話をしてくれる人が何人居りますので、全く同じことだと共感しています。

ぜひ、応化会共々、各年度同期会、クラス会等の活発な活動と発展を期待しています。



注 開催時間に遅れて参加された人は残念ですが記念写真に入っております。

企画運営

委員会報告

東 正弘
(昭和四十三年卒)

立命館大学写真研究会は昭和二十七年化学科卒の木村碩志氏が衣笠キャンパス時代に創設されました。O B 会は平成五年十一月、「理工学部・衣笠学舎」よならの集い」が催された時、有志約十三名が集まり結成されました。

当初の参加者は全部理工学部出身者で化学科卒が比較的多い構成でした。昭和四十年卒以後のメンバーは文科系の人々も加わり多様な顔ぶれになりました。

プロ級の腕前の人何人居り、楽しく活発に活動しています。平成十一年度は、二月二十五日から三月三日まで、フォト・コリドール・ムツミ(四条河原町東入北側)で写真作品展を開催し、期間中の二月二十八日には現役代表三名を交えて総会・懇親会を行いました。

撮影会は、六月十九日に三室戸から宇治川沿いの観光地を、会員以外のゲストにも門戸を解放して二十余名の参加で行いました。雨もよいの天候でしたが、三室戸のあじさい撮影にはまたとないチャンスで、後の観光地巡りには雨も小降りになり快い一日を過ごしました。十一月には滋賀県比叡山麓坂本の社

企画運営

委員会報告

東 正弘
(昭和四十三年卒)

寺・紅葉を尋ねて撮影会を催す予定です。理工学部創立六十周年記念校友大会の機会に、応化会からの出席者を対象に興味・趣味分野のアンケート調査が行われました。

この調査結果では、ゴルフに関心のある会員が三十四名で一番多かった様ですが、写真趣味も二十名近くありました。この結果に基づいて、懇親ゴルフや写真撮影を兼ねた比良山徒行会が企画運営委員会において実施されました。今後機会がありましたら、応化会の写真趣味の皆さんも、我々写真研究会 O B 会の催しにゲスト参加されることを歓迎します。



注 開催時間に遅れて参加された人は残念ですが記念写真に入っております。

第二回応化会懇親ゴルフ
五月二十二日(土)宇治カントリークラブにおいて応化会懇親ゴルフを開催致しました。興味・趣味分野アンケートに登録していただいている方々にご案内し、八名のご参加を頂きました。小規模ながらもシングルさんの参加もあり、卒業年次を越えた幅広い交流が出来ました。プレイ後の懇親会では、ゴルフ談義・仕事の話・身近な話等で盛り上がりました。

第一回比良徒行会
六月五日(土)滋賀県比良山へ「山歩き・写真」を趣味として登録して頂いている方々五名と山歩きをしました。篠原長政氏(四十三年卒)にコースから案内までお世話になり、天候にも恵まれ、気持ちの良い汗をかきました。

ゴルフ山歩き等の趣味をお持ちの方は応化会事務局へ登録して頂きますと、次回開催の際にはご案内させていただきますので、ぜひご登録下さい。

応化会事務局
TEL: 〇七七(五六一)二六五八
FAX: 〇七七(五六一)二六五九

「立命館大学理工学部

創立六十周年記念校友大会」

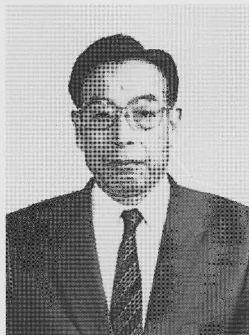
本年一月二十四日(日)、午後三時より、ホテルグランヴィア京都において「立命館大学理工学部創立六十周年記念校友大会」が開催されました。第一部の「記念校友大会」、第二部の「懇親会」に、法人・大学役職者、校友会役員、名誉教授などの来賓の方々、

を加えて、一、〇〇〇名を越える参加者となり、応化会関係者は、恩師の先生方を含めて約二〇〇名が参加しました。

第一部では、長田総長、学長の祝辞に続いて、谷口理工学部長から、「理工学部の現状と将来展望」と題して、理工学部の変革の経過、現状、展覧が紹介されました。引き続き、「二十一世紀のBK展」

「世界の中の大学をめざして」と題して、大南前総長・学長の記念講演が行われました。第二部の「懇親会」では、会場一杯を埋め尽くした参加者が久々の再会に旧交を温め、にぎやかに懇談が続

三代澤良明氏 平成十一年度科学技術庁長官表彰 を受けられる



本学、理工学部化学科の卒業生で、元教職員三代澤良明氏が「有機・無機複合樹脂塗料の開発」で平成十一年度科学技術庁長官賞(科学技術功労賞)を受けられました。

功労賞は、科学技術の進歩発展に顕著な功績があり、かつその功績内容が将来にわたっても顕著な効果が期待できるものが対象になります。

氏の開発した「有機・無機複合樹脂塗料」はシリカの水酸基とアクリル系、エポキシ系、ポリエステル系等の有機樹脂の水酸基とをシランカップリング剤等を触媒として複合化した有機・無機複合樹脂を開発し、この複合樹脂と適用目的に合わせた塗料に必要

な硬化剤や添加剤と

を分散させた塗料を設計し、従来の有機樹脂塗料では得られ

なかつた防錆性、耐候性、耐汚染性、塗膜表面親水性等の特性

を備えた塗膜を形成する新規な環境対応型の塗料です。本塗料は従来の塗料に比

べて防錆性で三倍以上、耐候性で一倍以上の優れた耐久性を有しているため、家電製品や自動車

鋼板などの鉄鋼製品のみならず、本四連路長大橋の塗料としてメンテナンスに採用されました。また本塗料は表面親水性被膜を形成するため空調機な

どの結露防止塗料としても用いられ、省電力向上に寄与するとともに国民生活環境の向上に貢献するとの評価を得ています。

三代澤良明氏略歴

昭和三十四年(一九五九年)三月理工学部化学科卒業、物理化学研究室助手、関西ペイント(株)技術部長(社)日本塗料工業会技術部長を経て現在フリー

企画運営委員会

からのご案内

第三回

ゴルフ懇親会開催のご案内

平成十一年十一月十三日(土)に、

レイクスワンカンツリー倶楽部で開催致しますので、参加ご希望の方は応化会事務局まで十月十五日までに、お申し込み下さい。

但し、定員に達し次第、締め切らせて戴きますのでご了承下さい。

第二回

山歩きのお開催のご案内

平成十一年十一月六日(土)に、山科駅に集合して音羽山を歩きます。初心者コースを歩きますので、これから健康のために、山歩きをしたいと思います。参加ご希望の方は、ぜひご参加ください。参加ご希望の方は、応化会事務局へ十月二十五日までに、お申し込み下さい。追って、ご案内致します。



絵：原田克巳

応用化学系紹介

本年三月をもちまして生物工学科の
 深海 浩先生がご退職されました。後
 任には、酵素学がご専門の若山 守先
 生が四月に赴任してこられました。昇
 任人事に関しましては、小島一男先
 生、民秋 均先生、藤田典久先生が教
 授に、また加藤 稔先生が助教授に、
 それぞれ昇任されました。



若山 守先生のご挨拶

本年四月に生物工学科の助教授とし
 て着任し、酵素学を担当しております。
 私は、足掛け八年間、関西で学生
 生活を送った後、前任地の大阪に移り
 ました。大分大学で、微生物由来の酵
 素を中心として酵素の基礎的な特性を
 調べるとともに、酵素の食品添加物と
 しての利用、医薬品原料合成への利用
 および環境負荷軽減への利用について

研究を行なって参りました。八年間、
 大分でお世話になりましたが、このた
 び、本学にお世話になることになり、

関西へ戻って参りました。現在、私の
 研究テーマの主たるものは、酵素の構
 造と機能に関することです。酵素は触
 媒として化学反応に関与しているわけ
 ですが、非常に高い特異性と触媒能を
 もっています。これらのことが、酵素
 の如何なる構造の特徴に基づいて生じ
 ているのかに、私は興味を持っており
 ます。また、酵素を様々な分野に利用
 することもテーマのひとつです。この
 ためには、より優れた有用酵素を生産
 する微生物を見つけて出すことが基本と
 なります。このBKCは、周りに琵琶
 湖や比良山をはじめとした山々に囲ま
 れた絶好の自然環境に恵まれておりま
 す。この地の利を生かして、学生諸君
 とともに自然を楽しみながら、有用な
 酵素を生産する微生物をどんどん分離
 していきたいと思っております。

同窓会の皆様にはお世話になること
 が多々あることと思いますが、今後と
 も宜しくお願ひ申し上げます。

略歴

- 一九八四年 京都大学農学部農生化学
科卒業
- 一九九〇年 京都大学大学院農学研究
科博士前期課程修了
- 一九九一年 京都大学大学院農学研究
科博士後期課程中退
- 一九九二年 大分大学工学部(助手)
応用化学科
- 一九九九年四月 本学に着任。農学博
士(京都大学)

応化会通信

会則変更について

第六回総会にて、次の通り変更が決定
 しました。

第六条、第八条

「特別会員」を「名誉会員」に変
 更する。

第二十一条

副会長「二名」を「若干名」に変
 更する。

第二十七条

「ただし、他の役員を兼ねること
 ができない」を「ただし、他の役
 員(常任幹事会構成役員)を兼ね
 ることができない。」に変更する。

事務局だより

事務局を気軽に ご利用下さい

◎応化会会員が気軽に立ち寄って欲
 できる場所として、応化会事務局内
 の応接室が利用できます。

◎同期会・クラス会等開催について、
 事務局で出来ることがあれば協力
 します。

◎在学生時の事を想い出し、旧友に一
 度連絡をしたいと思つたが応化会会
 員名簿を持っていない。

◎全国の大学の中でも有数の規模と内
 容を誇るキャンパスを一度見学した

い、或いは図書館を利用したい、等
 の希望を卒業生や学外の人たちから
 よく聞きます。

こんな時、気軽に応化会事務局
 (オーストリング6F)にご相談
 下さい。お手伝いします。

TEL 〇七七-五六-一二六五八
 FAX 〇七七-五六-一二六五九
 受付 (月・水・金 十時~十六時)

応化会事務局は、応用化学系事務局
 内にあります。スタッフは月、水、金、
 週三回勤務の武藤寿美子さんです。
 (月・水曜日の午後は二十七年卒の
 岸 要が事務管理の支援に向かいてい
 ます。)

応用化学系事務室のスタッフは今年
 三月合田孝子さんから飯塚真由美さん
 に代わりました。とても爽やかな女性
 で、武藤さんとは姉妹のようになごや
 かに協力し合っています。

今、事務局の最大の業務は、新しく
 パソコンを導入した名簿管理の仕事
 で、白石先生の指導で一先懸命頑
 張っています。

平成十一年度年会費の
 納入への協力をお願い

平成十一年度年会費(平成十二年三
 月三十一日迄)二千円を納入下さいま
 すようお願い申し上げます。過年度分
 の会費の納入、未納入に関係なく平成
 十一年度分を納入下さい。

年会費は、会運営の柱です。全会員
 の皆様がご負担下さいますようお願い申
 上げます。

会員の皆様の会費納入状況を同封し
 ています。平成十一年度分と共に、過
 年度分の納入につきましてご協力下
 さい。なお、平成八、九、十年度の完
 納者には、次回の名簿発行の際に無料
 配布の予定です。

送金には、同封の振替用紙をご利用
 下さい。なお、領収証は、郵便局の発
 行する受領証をもって代えさせていただきます。

(注：平成十一年三月卒の一部の会員
 は、平成十一年度分の会費を納入済
 びます。)

予定で、一つの節目を経て応化会も
 さらなる発展を望みたいものです。

三代澤氏の受賞おめでとうございま
 す。種々の分野で受賞者の続くこと
 期待します。企画運営委員会も活発
 に活動を計られており、また名簿
 管理委員会のご努力により新しい名
 簿の発行も予定されていますのでご
 期待下さい。

編集後記

本年一月に理工学部創立六十周年
 記念交友大会が開かれ、また当月
 には総長・学長が大南正英先生か
 ら長田豊臣先生に交代され、さら
 に二〇〇〇年度より「化学科」は
 「応用化学科」に、「生物工学科」は「化
 学工学科」へと学科名転換変更の
 (香山)

平成10年度（1998年度）事業報告

I. 諸事業

- 1) 全会員への通信（1回目） 1998年5月25日
（第6回総会案内、年会費の請求など）
- 2) 第6回総会開催 6月21日
- 3) 第1回懇親ゴルフ（企画運営委員会） 8月14日
- 4) 1998年3月卒業生名簿作成 9月30日
- 5) 応化会ニュースの発行 9月30日
- 6) 全会員への通信（2回目） 10月20日
（応化会ニュース、新卒者名簿、理工学部創立60周年記念校友大会の案内、年会費の請求など）
- 7) 名簿管理
- 8) 理工学部創立60周年記念校友大会への参加事業

II. 諸会議

- 1) 幹事会
 - 第1回（合同） 1998年5月23日
 - 第2回 10月3日
 - 第3回 11月21日
- 2) 常任幹事会
 - 第1回（合同） 1998年5月23日
- 3) 委員会
 - 応化会ニュース編集委員会 1998年7月2日
 - 企画運営委員会 1998年6月21日
 - 名簿管理委員会

III. 在校生への援助活動

- 1) 応用化学系卒業・修了記念パーティー
1999年3月22日（於京都ホテル）

平成10年（1998年）度決算報告

一般会計

〈収入の部〉	予算額	執行額
前年度繰越金	2,232,136-	2,232,136-
会費	4,000,000-	2,827,000-
寄付金	500,000-	498,000-
雑収入	10,000-	151,241-
合計	6,742,136-	5,708,377-

〈支出の部〉	予算額	執行額
総会開催費	300,000-	64,000-
セミナー等補助金	500,000-	360,000-
会議費	200,000-	104,772-
印刷費	1,000,000-	666,802-
郵送料	2,000,000-	1,701,315-
人件費	450,000-	143,000-
事務局費	50,000-	45,109-
雑費	100,000-	3,591-
拠出金	1,000,000-	1,000,000-
在学生活動援助費	150,000-	94,920-
振り込み手数料	100,000-	73,340-
予備費	892,136-	139,574-
次年度繰越金	0-	1,311,954-
合計	6,742,136-	5,708,377-

特別事業会計

〈収入の部〉	予算額	執行額
前年度繰越金	2,604,244-	2,604,244-
拠出金	1,000,000-	1,000,000-
名簿売り上げ（一般）	10,000-	2,000-
名簿売り上げ（学生）	100,000-	0-
名簿荷造送料	1,000-	1,000-
名簿広告掲載料	0-	0-
雑収入	1,000-	2,098-
合計	3,716,244-	3,609,342-

〈支出の部〉	予算額	執行額
名簿出版費	1,500,000-	0-
名簿荷造料	100,000-	0-
人件費	800,000-	715,212-
事務局費	100,000-	0-
予備費	1,216,244-	100,735-
次年度繰越金	0-	2,793,395-
合計	3,716,244-	3,609,342-

平成11年度（1999年度）事業計画

I. 諸事業

- 1) 第2回懇親ゴルフの開催（企画運営委員会）
1999年5月22日
- 2) 第1回比良徒行会の開催（企画運営委員会）
1999年6月5日
- 3) 1999年3月卒業生名簿作成 1999年9月
- 4) 応化会ニュースの発行 1999年9月
- 5) 全会員への通信 1999年10月
（応化会ニュース、新卒者名簿、年会費の請求など）
- 6) 在学生への通信 1999年10月
- 7) 名簿発行 1999年11月

II. 諸会議

- 1) 幹事会
 - 第1回 1999年6月26日
 - 第2回
- 2) 常任幹事会
- 3) 委員会
 - 応化会ニュース編集委員会 1999年6月26日
 - 企画運営委員会
 - 名簿管理委員会 1999年6月26日

III. 在校生への援助活動

- 1) 応用化学系卒業・修了記念パーティー 2000年3月

平成11年（1999年）度応化会予算

一般事業会計

〈収入の部〉

前年度繰越金	1,311,954-
会費	4,000,000-
寄付金	500,000-
雑収入	10,000-
合計	5,821,954-

〈支出の部〉

総会開催費	0-
事業等補助金	500,000-
会議費	200,000-
印刷費	1,000,000-
郵送料	2,000,000-
人件費	450,000-
事務局費	50,000-
雑費	100,000-
拠出金	1,000,000-
在学生活動援助費	150,000-
振り込み手数料	100,000-
予備費	271,954-
合計	5,821,954-

特別事業会計

〈収入の部〉

前年度繰越金	2,793,395-
拠出金	1,000,000-
名簿売り上げ（一般）	10,000-
名簿売り上げ（学生）	50,000-
名簿荷造送料	1,000-
名簿広告掲載料	0-
雑収入	1,000-
合計	3,855,395-

〈支出の部〉

名簿出版費	1,500,000-
名簿荷造料	100,000-
人件費	800,000-
事務局費	100,000-
予備費	1,355,395-
合計	3,855,395-